

第 14 回日本ジオパーク全国大会 下北大会が開催されました！



長年の活動が評価されNPO法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会が表彰されました



下北半島の西側、海岸に沿ってみられる凝灰岩の岸壁。仏像を思わせることから「仏ヶ浦」と呼ばれています



見所施設や場所に看板が設置され、大地の歴史や特徴が紹介されていました

令和6年8月30～9月1日にかけて、青森県むつ市において、日本ジオパーク全国大会が開催されました。ジオパークの日本認定を受けている46地域より、ガイドに関わる人や教育・研究活動に関わる人、産品開発・販売に関わる人など約900名が集まりました。

会場となったむつ市は、近隣の大間町・東通村・風間浦村・佐井村とともに、2016年「下北ジオパーク」として日本ジオパークに認定されました。太平洋、津軽海峡、陸奥湾と性質の異なる3つの海に囲まれ、東側と西側の山々の間に低い土地（田名部平野）が広がり、地域性のある産業、文化が特徴です。

主な見どころとして、信仰の地である「恐山」、海底火山の活動で形成された凝灰岩の岸壁「仏ヶ浦」、本州最北端「大間崎」、津軽海峡と太平洋を見渡す灯台がある「尻屋崎」があります。ジオパーク全国大会のツアーでは、これらの見どころをバスで周り、実際に行われているガイド活動の様子や工夫を学びあいました。

メイン会場となった「しもきた克雪ドーム」では、研究発表のポスター展示と地元製品の販売ブース、地質や産業関係の体験ブースが並び、ステージイベント、分科会が開催されました。



全国を巡回している展示「地球時間の旅」の特別展



各ジオパークの取組み発表、分科会が市内各所で行われました

来年度の日本ジオパーク全国大会は、北海道「十勝岳ジオパーク」（美瑛町・上富良野町）で開催予定です！